

# SHIPS 多文化共生支援センター



2008年に起こったリーマンショックにより、日常の生活が奪われた外国籍住民がたくさんいました。“職を失い、先の見えない不安に直面している彼らを救いたい。国籍が違って、同じ地域で暮らす住民として、家族みんなが安心した生活を送れるようにしたい”そんな思いで日々活動している団体取材しました。

## 誰もが安心して暮せる地域を目指す

SHIPS は、国籍の壁を無くし、相互理解を深めることで、外国籍住民の生活を向上させようという取り組みがきっかけとなり、設立されました。SHIPS が中心となり、他団体と連携しながら、外国籍住民の生活、就労、教育の支援のほか様々な相談を受け、日々外国籍住民のサポートをしています。

「我々は外国籍住民の駆け込み寺でありたい」と熱く語る所長の喜久川さんにお話を伺いました。

活動分野 国際、人権

スタッフ数 3名

団体設立 2008年3月30日

団体ホームページ

<http://s-h-i-p-s.org>

## 安心した生活のために、就労をサポート

SHIPS が設立された 2008 年はリーマンショックが起こった年でした。当時、日本に在住していた多くの外国籍住民が職を失い、大きな社会問題となりました。そうした危機的な状況をいち早く察知し、支援するために、SHIPS が事務局となり、募金活動や生活物資の確保に奮闘しました。また、生活状況や家庭内の問題を中心に相談を受け付けるなど、SHIPS の存在は大きな不安を抱えた外国籍住民にとって、心の拠り所となり、重要な役割を果たしました。

そうした活動を続けていく中で、一番の課題となっていたのが就労問題でした。職を失うことは、生活が成り立たないことはもちろんのこと、家庭内の問題にも繋がるなど様々な影響が出てきます。一刻も早く職を見つけて、安定した生活を送ることが理想ですが、外国人だからという理由で時給が大幅に下げられたり、短期契約とされたりと雇用条件が非常に厳しいものだったそうです。そこで SHIPS から派生し、外国人の就労支援に特化した、NPO 法人外国籍住民自立就労協会を設立しました。そして、その中で特に力を入れている事業である外国人介護職員養成講座は、地域住民の 1 人として介護の仕事に就くことを目標に支援しています。

## 地域住民の1人として、社会に貢献する人材を育てる

2015年から始まった県の委託事業である外国人介護職員養成講座は、滋賀モデルとして全国でも初めて、募集から就労後まで手厚くサポートするという試みを行い、注目を集めています。NPO 法人外国籍住民自立就労協会が、日本語教育（100時間）、NPO 法人街かどケア滋賀ネットが、介護職員初任者研修(130時間)を担い、SHIPS が中心となって行われています。また、有料職業紹介事業では、喜久川さん、通訳、本人とで介護施設を3ヶ所ほどを見学して就労先を決め、本人が直接聞きにくい給料のことや休みのことは、喜久川さんが聞いて教えてあげます。その後、就労先が決まり、実際に働く中でも色々な問題が発生します。そんな時にも喜久川さんがすぐに通訳を連れて話し合いに赴き、解決に協力します。

現在、滋賀県内には25,000人程の外国人が暮らしており、在留資格（永住者、日本人の配偶者、永住者の配偶者、定住者）であれば日本人と何ら変わりありません。近年、日本全国で少子高齢化が進み、特に福祉業界では人手不足に悩まされています。「日本の言葉や文化をよく知る外国人に介護職に就いてもらい、地域住民の1人である彼らに目を向け、どんどん活用するべきです。結果、雇用の拡大に繋がり、彼らにとっても社会にとっても大きなメリットになります。」

## 食を通じて多文化を知る

「子ども達が、色んな国の人や文化について食を通じて知るきっかけになって欲しい。」滋賀県の縁創造実践センターの助成事業として、2016年7月に多文化子ども食堂が始まりました。月に一度、毎月違う国の料理が食卓に並びます。「今は、社会状況の変化により、貧困家庭やシングルマザーなど社会的弱者が増え続ける中で、本当に困っている家庭に手を差し伸べていきたい。しかし、実際には、どの家庭が本当に困っているのかが見えてこない。逆にそういう人ばかりを集めて固めると地域からの目もあるので、そこがすごく難しい。」国籍や社会的弱者など分け隔てなく、地域と一緒に交流できる場を作りたいという思いが、これからも草津の多文化共生を後押ししてくれることでしょう。



▼SHIPSの外観



▼生活、就労のための日本語教室



## 取材＊メモ

センター内で行われている日本語教室「虹」の子どもたち1人1人に、「おはよう！元気？体調大丈夫？」と握手を交わす喜久川さんの姿を目にしました。「声をかけて気にかけることが大切です。」とおっしゃったのが印象的でした。日頃の積み重ねが、お互いの信頼関係に繋がるのでしょうか。

